新型コロナウイルス感染防止対策に係るアンケート結果

高齢福祉室まとめ

１　調査概要

（1）調査期間：令和2年6月5日（金）から令和2年6月12日（金）

（2）対象施設：市内介護保険サービス事業所等(91施設)

（内訳）特別養護老人ホーム（地域密着型含む）（20施設）、介護老人保健施設（7施設）、認知症高齢者グループホーム（17施設）、特定施設入居者生活介護（9施設）、住宅型有料老人ホーム（18施設）、軽費老人ホーム（3施設）、サービス付き高齢者向け住宅（17施設）

（3）回 答 率：81.3％（73施設／91施設）（※特別養護老人ホームの回答率は80％）

２　調査結果

問１　施設等へのウイルス侵入を予防する方策について、実施している項目にチェックしてください。

％

＜その他の主な回答＞

・ジアイーノ（次亜塩素酸空間除菌脱臭機）設置

・マスク着用での業務（職員、通院時、業者等）、うがい薬を使ってうがい、手洗い、消毒マット、飛沫防止パーテーションの導入

・入居者の外出外泊原則禁止。新たに入所（SS含む）される際の体調チェックと不調の際は入所の延期依頼

・新規入所、退院時、２日間の居室対応

・訪問簿へ検温の記録

・点検、メンテナンス業の業者立入りのリスクを考慮し時期を見直している。

・デイサービス利用の中止や制限

・デイサービス利用者のマスク着用、部屋の換気

・行事の中止

問２　職員の健康管理について、実施している項目にチェックしてください。

職員の行動履歴2週間分のメモ

同居家族の感染等の速やかな報告

軽微な症状でも休ませる

％

＜その他の主な回答＞

・施設内でもマスク着用

・出勤時の体温測定（9件）、記録、出勤時のうがい

・出勤時の酸素飽和度測定

・うがい薬を使ってのうがい、手洗い

・施設スタッフ出勤前検温37.5℃以上は出勤不可。37.0℃以上あれば上司へ連絡し出社の判断をもらう。

・施設内外でマスクを分ける。アルコール消毒スプレーを渡し、自宅での消毒の徹底

・朝礼時、３蜜を避けるよう周知を図る。

・食生活・口腔ケアの徹底

・外出自粛（不要不急）の継続。

・口頭による行動制限のお願い

問３　入居者の医療機関受診時の工夫について、実施している項目にチェックしてください。

％

＜その他の主な回答＞

・延期が可能か、主治医や受診先医療機関に電話等で確認

・受診時期の先送り（再予約）、支障のないものは予定を変更、定期検査の延期

・可能であれば家族等のみでの受診をお願いし、極力受診（本人の）を減らしている。

・病院に連絡し、薬のみの処方

・薬の処方のみの場合は、スタッフにて対応

・往診（内科）は定期的に来てもらっているが外来については状態に特変ない場合は処方箋の発行のみで受診せず。３～５月歯科中止。

・極力往診のみとしている。

・付き添い家族での対応の場合の検温、体調不良有無の聞きとり

・家族より職員の付き添いを図る。

・施設に帰ってきた時に手洗い・うがい、車椅子・ストレッチャー・車内の消毒、衣類等消毒

・各居室での対応を徹底

問４　施設内の感染拡大防止策について、実施している項目にチェックし該当するものに○をしてください。

手洗い場への物品の設置

マニュアル等を参考にした職員研修等の実施

感染疑の入居者が出た場合に備えた間隔の想定

ケア前後の石鹸等による手洗い

居室及び共用部分のこまめな換気

職員及び入所者の検温、症状観察

％

＜その他の主な回答＞

・行事（外出、外食、歌や声を出す等）、外部ボランティアによるレク中止

・いきいき百歳体操の際、席の距離をあけ、窓を常時開放、手指消毒の徹底、マスクを着用して実施している。

・人数制限、1ｍ以上の間隔をあける、レク時換気、手洗い、うがい、手指消毒、検温

・部署毎の開催、アクリル板設置、パーテーション設置

・レクリエーションは少人数とし、間隔をあけ、出入口を一方通行にして手指消毒を実施。

・時間差での食事。座席位置の変更。

・座席の距離を空ける、向かい合わせに座らない。

・行事内容の精査、ケア単位の混在回避

・食堂や玄関に消毒器の設置。おやつの時も手指消毒を実施。使い捨ておしぼりの使用。

・居室外でのマスク着用、リビングの利用数制限等

・職員の休憩時間をずらす。

・口腔体操の中止、歌や大きな声を出すレクの中止

・感染者発生時の対応時連絡先、食席、居室見取図等情報をまとめている。

問５　備蓄できている衛生材料（代用品を含む）を教えてください。

％

＜その他の主な回答＞

・プログレスウォーター、希釈次亜塩酸、プリュテックという商品名の消毒液

・次亜塩素酸水での清掃と加湿器での噴霧

・ピューラックス、布マスク、不織布フィルター、手洗い洗剤

・雨合羽、シャンプーハット、手作りマスク、使い捨てシューズカバー

・N95マスク　使用期限切れもありますが。

・６月に入ってから備蓄できるようになった。

・全ての物が少しある程度でマスク以外全く足りていない。

問６　現状の感染防止対策で不安や心配なことはありますか。

％

＜その他の主な回答＞

〇施設等へのウイルス侵入防止

・面会制限をかけているが６月から一部解除している。（面会２人、１５分まで。どのタイミングで規制を緩めるか強めるかの判断が非常に難しい。）

・面会禁止→制限に変更しているが家族からの感染リスク（カーテン越しの面会実施で安全か否か）

・今後面会を制限しなくなった場合に家族からの感染の持ち込みが不安である。

・サポーター等の受け入れタイミング、ご家族様の面会制限緩和のタイミング等

・面会の再開によるリスクのUPへの対応（どのタイミングでどう対応するか）

・ご家族への面会制限をいつまでするか（重度認知症ご利用者にはweb面会が不向き）

・制限を設けつつ、面会を一部再開しているが、第２、３波を警戒している。

・理美容サービスでの来訪等による来訪者の持込み・予防策は十分か。スタッフによる予防策が本当に充分に行えているか（チェックが必要）

・外部介護サービス（デイ、訪問等）の利用

・外出した入居者の観察。

・一般社会における規制が緩和されつつある状況で、介護施設として慎重に対応しているが、理解いただけない方もあり、公式な通達があると説明がしやすい。

〇施設等での隔離

・症状がある利用者を完全に隔離できるスペースがない。

・コロナウイルス感染の可能性が高い場合、隔離に限界がある。

〇職員の健康管理

・訪問ヘルパーやナース（訪看）のコロナの持ち込み。

・電車通勤スタッフの時差出勤、デイサービスへの通所の心配、普段の風邪もひかない健康管理、スタッフの行動や健康管理

・通勤時（電車）での感染が心配

・職員の継続した健康管理の徹底

〇施設等での換気

・夏場の冷房稼働時における換気の方法について（回数や時間）

・夏に向け、空調の観点より、密室になりやすい。空調管理しながらの換気方法（上手によい方法）、マスク着用での介護に熱中症のリスクがある。どちらも実施していくための工夫。

・これから夏が近づきマスク着用や換気における熱中症の対策に不安がある。

〇患者発生時の施設内対応

・感染者や濃厚接触者が出た際の対応はマニュアルだけ渡されてもできません。実地指導する体制を確保してください。

・発症時の指示命令、受診が遅れること（入所者）

・実際に感染者が出た時の対応

・感染者が出たときの対応

・コロナ発生時の入居者様への対応が、想定通りにできるのか。

・対応の費用

〇患者発生時の職員体制の確保

・職員の体制が確保できるのかが不安

・コロナが発生した場合の職員配置

・職員の代替要員の確保

・職員が感染した場合の勤務体制への不安

・万が一、感染者が発生（入居者、職員）した時の職員の補充

・万が一の人材不足

・発生時に出勤できない職員がどれくらいいるのか。

・スタッフ（家族）の感染時での休ませたときのスタッフの補充

・職員が自宅待機し人員不足になった時、応援は受けられるのか？

・職員が自宅待機になった時の人的不足が不安である。

・感染拡大時等の人員確保

・感染が蔓延した場合の人員確保

〇衛生材料の確保

・問５の衛生材料が備蓄できない。（品不足）特にガウンがないので、コロナ疑いの方の対応に困ります。

・問５に関してはほとんど確保できていない。

・医療用の消耗品の在庫不足

・マスク、手袋が今後も足りるか（備蓄品の不安）

・防護服、アルコール、マスク、フェイスシールド等、感染防止用具が速やかに手に入らない為、万一疑いのある者が出た場合に、現状の在庫では不安である。

・感染症発生時に備蓄の物品が足りるのかが不安。

・マスク、手袋、エタノールなど６月まで入手困難だったので不安だった。

・衛生材料の確保

・入荷困難な感染対策必要物品（手袋、ガウン、フェイスシールド等）

・マスク・ガウン・エタノール・体温計・手洗いソープなどが簡単に購入できない。（欠品や価格の高騰）

・衛生材料がなくなる等が不安

・感染者が出た場合は、クラスター防止のため至急に衛生物品が供給してもらえるのか不安

・万が一、感染者が出た場合に受入れ先があるのか、ない場合には備蓄している衛生品数ではすぐに枯渇すると思われるが、品薄状態で確保が難しい。

・アルコールが届いていない（吹田市から支給分）。会社もアルコールに関しては、しぶっている。

・マスク・消毒用エタノールのストック

・現在消毒用エタノール（アルコール）のジェルではなく液体が手に入りにくい。

・万が一発生した時の物品

〇保健所業務等に関連すること

・４月に保健所に問い合わせ。施設内で職員入居者様がコロナに感染した場合、入院になると聞いたが、認知症の方の入院受入れは可能なのか。

・感染が疑われる入居者が出た場合、他入居者や、職員、全ての検査はすぐにしてもらえるのか？すぐに入院することはできるのか？

・万が一、入居者、職員等が感染した場合、病院等の受入先があるのか・発熱時の受け入れ医療機関の少なさ。

・ケアハウスは認知症の方もおられ、感染されたもしくは疑いがある場合でも居室から出てしまう。早急に入院の必要性があると思うが、すぐに出来るのか。現状を知りたい。

・利用者が発熱した場合の対応（受診の可否、受入れ病院の有無）。感染者が出た場合の対応（どこまで隔離ができるか、入院ができるか）

・職員に体調不良者が出たら、検査受けられず、長期間休み、勤務表に穴があき、まわりの職員がそれを支え、どんどん疲弊していく。検査が受けられるようにしてほしい。

・感染の可能性が高い場合、感染拡大の可能性も高くなる。このような情勢の中で勤務し、特に小さなお子さんがいる、高齢の親と同居している職員の心理的な不安への対応。

・どれだけ徹底しても発症者がでれば拡大を止めることは困難と感じる共同生活。理解が難しい認知症の方、提供するサービスは全て濃厚接触ありき。スタッフだけでも定期的なPCR検査が可能になれば少しは安心か…？設備・知識不足などで十分に対策出来ているか不安。

・６月よりデイ参加を開始している。吹田市内で感染者が発生した時、各事業所や施設への情報共有が迅速であるかどうか。もし感染者が発生した時は不安。

〇その他

・無症状の感染者に対する防止対策

・全て不安

・終了の時期

・現在の状況がいつまで続くか。対策をいつまで、どのような形で取ればいいかがはっきり分からず不安。職員・利用者の不安に対応が難しい。

・今は予防ですが、実際に感染者が出た場合は不安です。

・コロナウイルスが身近で発生しないかと常に不安です。

・ワクチンや特効薬が出来るまでは不安です。

・入居者様の精神的ストレスの緩和方法